

2016年9月1日

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営」コラム第58回

＜オリンピック選手と成果＞

8月21日に閉幕したリオデジャネイロ五輪では日本の選手が大活躍でした。史上最多の41個のメダル数だけでなく、柔道、レスリング、体操、水泳など、日本が、昔から比較的得意とする種目以外でのメダル獲得や、惜しくも金は逃してしまってもむしろ銀や銅メダルの獲得選手のなかで、私達に大きな感動を与えてくれた選手が多く存在しました。特に凝縮された人生の縮図を観ているようで、私達の胸に迫るものがありました。

また、ビジネスマンにおいては、オリンピック選手がメダルに挑戦する姿を、日々の仕事に於いて、目標にチャレンジしている自分の姿とダブらせておられた方も多いのではないのでしょうか。

結果を出すために過酷な練習を自らに課し、所属国の大きな期待を担いながら試合に臨む選手の闘いと、自己革新に挑戦しながら会社の使命感やビジョンを背負って市場でライバル企業と競争するビジネスマンの活動とを比べてみて、その価値を生むプロセスには本質的な共通点が多かったことを感じた人は多いはずです。

〈成果をあげる五つの習慣〉

成果をあげるには、次の五つの習慣を身につけることが重要である。

- (1) 時間をマネジメントする。
- (2) 貢献に焦点を合わせる
- (3) 強みを生かす
- (4) 重要なことに集中する
- (5) 効果的な意思決定を行う

これらのほとんどは実践によって磨かれるべきものである。

— 出典：「プロフェッショナルの原点」P.F.ドラッカー著（上田惇生訳）—